



パネラー

関口 陽一  
北海道経済連合会  
地域政策グループ 部長



パネラー

齋藤 真由美  
豊富温泉健康相談員  
温泉利用指導者・保健師



「広域連携による住民が主役の豊富温泉活性化に向けて」

熱や化学成分による効果に加え、自然豊かな場所に滞在することにより日頃のストレスからも解放される温泉の体へのよさが、再び注目されています。特に、超高齢社会に突入した現代、健康によく、旅行も楽しめる温泉地は、高齢者にとって理想的な滞在先の一つと考えられます。

豊富温泉は、皮膚疾患への効能が特に高く評価されており、多くの湯治客が訪れています。また、豊富町には、サロベツ湿原や大規模草地牧場、ゴルフ場、スキー場をはじめとする自然豊かな観光資源があり、約40キロメートル移動すると日本最北端の稚内市に行くこともできます。そのため、豊富町は、地域の魅力を道でつなぐ「宗谷シーニックバイウェイ」や、外国人旅行者の地方への誘客を図るためにテーマ性・ストーリー性を持った一連の魅力ある観光地を交通アクセスも含めてネットワーク化する「日本のてっぺん。きた北海道ルート。」といった広域観光ルートにも組み込まれています。

住民の皆様が「宗谷シーニックバイウェイ」などの取り組みを通じて企業や行政と手をつなぎ、観光資源を生かした個性的で活力ある地域づくりに主体的に関わることで、皮膚疾患への効能が特に高く評価されている「健康づくりの場」としての豊富温泉の魅力だけでなく、住民の皆様が地域に対する思いを具体化できる「夢の実現の場」としての豊富町の魅力を高めることもできます。

温泉を最大限に活用しながら、「健康づくりの場」「夢の実現の場」としての機能を今まで以上に強化することで、温泉地が持つ資源や魅力を生かして地域の活性化につなげることが期待されます。

## 9/3 8:30～ 日本の名湯百選 © 連携会議



### 総括講演「温泉ガストロノミーツーリズムの薦め」

小川 正人

ANA 総合研究所代表取締役副社長



## 豊富温泉の歴史

豊富温泉は、大正14年の石油掘削の際、天然ガスを伴った温泉が噴出したことに端を発します。当時、47ℓ/分だった湯量は、平成28年現在では153ℓ/分まで増加し、泉温30℃の温泉がホテルや旅館等各施設に配湯されて利用されています。当温泉地は、稚内市より南方約40km、豊富市街より東方約6kmに位置することから、**日本最北の温泉郷**ともいわれ、地元住民の保養の場と観光客の宿泊中継地や湯治場として発展してきました。

温泉地区は、最盛期には約15件の旅館や民宿で賑わっていましたが、現在は5軒のホテルや旅館等の宿泊施設となっており、内3軒が源湯を直接浴場に入れて営業している状況です。また、アトピーや乾癬の皮膚病患者の湯治場として全国の湯治客から注目を集めている町営日帰り入浴施設「ふれあいセンター」があります。この「ふれあいセンター」は、昭和33年「もとゆ館」として運営経営しておりましたが、昭和63年に「もとゆ館」に代わる新たな温泉入浴施設として「ふれあいセンター」が新築され現在に至ります。

**特異な泉質の象徴である石油成分**に含まれるタール成分には、肌の炎症を抑える効用があると言われアトピー性皮膚炎や乾癬等の皮膚病への効果があることで注目を集めており、北海道内外から多くの方が来湯しています。「ふれあいセンター」には皮膚病湯治の方が他人の目を気にせずゆっくり入浴ができるよう、ぬるめの湯温が特徴である湯治専用浴槽も完備しており、全国各地から皮膚病湯治に来湯する湯治客の健康、自然志向に応えられるよう、環境整備と合わせて長期滞在をサポートする事業も行っています。

また、温泉と共に天然ガス（メタンガス）が約6,500㎡/日噴出していますが、これまでは使用量の多い冬期間でも約2,500㎡/日しか使用しておらず、その大部分を空中放散しているのが現状でした。町としては、天然ガスを利用し温泉地域の特性を活かした新規事業の創出を行い、移住希望者及び長期湯治客に就労の場を与え、地域エネルギーを有効活用した地球環境に配慮する温泉地を目指しています。



全国各地から湯治に訪れる国民保養温泉地 豊富温泉

平成4年1月に国民保養温泉地の指定を受け、アトピー性皮膚炎や乾癬等皮膚病湯治客の長期宿泊に対応するため、低価格の町営宿泊施設「日湯快宿（7室）」を平成10年に開設しており、平成27年4月からは利用者増加に伴い廃業したホテルを町が買い取り、町営宿泊施設「新湯快宿（19室）」もオープンしています。



豊富温泉開湯90周年ー日本の名湯百選認定記念事業



## 第5回日本の名湯百選 © シンポジウム2016

### 保養温泉地の挑戦ー日本最北の名湯への期待と課題

2016年9月2日（金）3日（土）

### 北海道豊富町定住支援センター及び温泉自然観察館

【主催】NPO 法人健康と温泉フォーラム 北海道豊富町

【後援】環境省、全国市長会、全国町村会、地域活性学会、日本健康開発財団、日本温泉気候物理医学会、温泉療法医会、日本スパ振興協会、北海道宗谷総合振興局、北海道新聞社、宗谷新聞社

【協力】株式会社 ANA 総合研究所、ANA セールス株式会社

#### 9月2日（金）シンポジウムと交流レセプション

14:00 開会式

14:30 基調講演「日本最北の名湯への期待と課題」

大塚 吉則（北海道大学大学院教育学研究院教授）

15:40 パネルディスカッション「温泉を活用した健康づくりと地域づくり」

コーディネーター 合田 純人（健康と温泉フォーラム常任理事）

パネラー 中島 尚子（環境省自然環境局温泉地保護利用推進室長）

工藤 栄光（北海道豊富町長）

関口 陽一（北海道経済連合会地域政策グループ部長）

齋藤 真由美（豊富温泉ふれあいセンター保健師）

17:00 宿泊券他抽選会

18:30 交流レセプション（ホテル豊富）

#### 9月3日（土）日本の名湯百選 © 連携会議とエキスカーション

8:30 第5回日本の名湯百選 © 連携会議（豊富町温泉自然観察館）

コーディネーター 合田 純人（健康と温泉フォーラム常任理事）

連携温泉地代表報告

総括講演「温泉ガストロノミーツーリズムの薦め」

小川 正人（ANA 総合研究所代表取締役副社長）

閉会式

11:00 エキスカーション（サロベツ湿原センター、稚内市内、宗谷岬他）

